

連系線の運用容量算出における検討条件の見直しについて (2027～2036年度)

2026年9月7日
電力広域的運営推進機関

1. 連系線の運用容量算出における検討条件の見直しについて（2027～2036年度） 2

■ 2026年5月に公表した「連系線の運用容量算出における検討条件について（2027～2036年度）」に掲載したフリンジの設定値について、一部誤りが確認されたため、下記の通り修正する。

✓ 誤りの原因：（発生個所）中部関西間連系線
本来フリンジの算出に織り込まないブランクのセルを「0」として取り込んでしまい、フリンジ3σ値が小さく算出された。
⇒他の連系線では同様の誤りが発生していないことは確認済み。

➤ 修正前のフリンジの設定値（2026年5月公表済） (万kW)

		実績3σ値					今回の 設定値	前回の値 (参考)
		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度		
中地域交流ループ ²⁾		－	－	－	－	－	38	－
内 訳	中部関西間連系線	33.7	33.6	32.3	33.8	33.9	34	34
	北陸関西間連系線	11.2	12.4	12.7	15.9	14.9	16	16

➤ 修正後のフリンジの設定値（2026年9月再公表） (万kW)

		実績3σ値					今回の 設定値 ¹⁾	前回の値 (参考)
		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度		
中地域交流ループ ²⁾		－	－	－	－	－	39	－
内 訳	中部関西間連系線	33.7	33.6	32.3	33.8	35.3	36	34
	北陸関西間連系線	11.2	12.4	12.7	15.9	14.9	16	16

1) フリンジの設定値には、連系線潮流実績値から計画値とのズレを求め、正規分布に置換えた時の3σ（99.7%）値より、限界潮流を超えないように過去5年の実績から算出された値の最大を切り上げた数値を用いる。（利便性を考慮して万kW単位とする）
2) 中地域交流ループ（中部フェンス、北陸フェンス、関西フェンス）のフリンジは中部関西間、北陸関西間連系線の数値の2乗和の平方根で算出し、2027年度以降に実施する算出の検討条件に使用する数値は、実績値を用いて設定する。